



社長のひとりごと…

当誌『わいわいくらぶ』は、当社の大切なお客様のために、わたしたち藤本工務店のスタッフがお伝えさせていただきますコミュニティー誌です。

## 『ありえない』



最近はずっと冷え込み、日も随分と短くなってきた。建築現場ともなれば、日が傾き出した午後からは照明が必要となり、雨の日などは朝から電気の点けっぱなしである。工事中の仮設照明は家一軒ともなれば、一個や二個の電球では足りず、それなりの数が要る。また、取り扱いが激しい為よく割れてしまう。

そんな訳で、今回はホームセンターに電球を買いに行ったわけだが、最近の電球は形がさまざまで、丸い物もあれば、細長い物もあり、ソフトクリームのような形のものまである。また、LED電球ともなれば それなりの値段もする。

迷ったあげく、他のホームセンターに出向き価格を確かめるが、結局最初の店のほうが……。無駄な時間を使ったものだと思いつつも、最初の店で気持ちよく？箱入りのセットを購入させて頂いた。帰ってさっそく電球を取り換え始めたのだが、アレッ！ 一個足りない……。箱の中を何度も見るが、空っぽである。初めから一個入って居なかったとしか考えられない。はたして店に言っても信用してもらえるだろうか……。不安に思いつつ、店長さんに事実を説明すると、”すみません！万引きなどがございまして、申し訳ありません。”と詫びてはくれるが、その目は何となくスッキリせず、頭の下げ方もそこそこに感じられた。しかし、気持ちよく？一個渡してくれたので取りあえずホッとする。帰って取付てみるが、なんと！今度は明かりがつかない。他の器具に取付てみるが結果は同じである。複雑な思いで再び店長さんに伝え、早速、店に備え付けの電球サンプル台にセットして点検してくれた。だが、やっぱり点かない。球切れである。

ここで、店長さんがポツリと一言、”ありえない”。今度の頭の下げ方は、先ほどとは明らかに違っていた。

こんな経験はめったに出来るものでもなく、おかしくて笑いさえ込み上げてくる。とは言うものの、何度も何度も店まで往復する車内で、湧き上がる感情をコントロールするのに苦労した事は容易に想像して頂けると思う。

この小さな一つの事件は、私のちっぽけな心の使い方を、神様が試されている様にも思えた……。

ではまた、来月もお会いしましょう。  
今回も最後まで読んでいただき……、

# あーッ ごめいました!!

